

事後評価シート

調査研究課題名	旅館ブランドに関する調査研究 ～旅館経営者の外国人旅行者受入の実態と 外国人宿泊客から見た「Ryokan」～
担当者	主任研究官 坂井志保 研究官 武田紘輔 研究官 中尾昭仁 前総括主任研究官 長谷知治 前研究調整官 松永康司 前研究官 井上諒子
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、今後インバウンド観光の有力な担い手としての役割が期待される「旅館」を対象として、より効果的に海外に「旅館」を発信していくため、外国人旅行者にとって「旅館の魅力とは何か」（旅館ブランド）を明らかにすることを目標とした。調査にあたっては、旅館関係者や有識者などと「旅館ブランド研究会」を平成 25 年 9 月より立ち上げ、議論を進め、「旅館の魅力とは何か」の仮説を設定、その検証を行うために旅館経営者や外国人宿泊客にアンケート調査を行ってきた。</p> <p>調査研究の成果として、外国人宿泊客が感じる旅館の魅力及び海外に向けた旅館の発信に関する課題、旅館における外国人宿泊客受入に関する取組み、双方における意識のギャップ等について分析を行い、関係者における旅館の発信に向けた取組みの方向性を示すものとして、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、観光分野における有識者から分析の視点等についてアドバイス頂くと共に、旅館経営者等の関係者の意見を反映したアンケート調査（旅館経営者向け、外国人宿泊客向け）を実施。旅館経営者と外国人宿泊客の視点から「旅館の魅力とは何か」の分析、検討を行った。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究は、旅館経営者や有識者を交えた「旅館ブランド研究会」において、調査研究の進め方等を議論しながら進めた。また、観光分野における有識者から調査内容の妥当性、まとめ方についてご助言頂いた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。本調査研究の結果が、今後の我が国におけるインバウンドの促進に資するものとして取りまとめを行う。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容の一部を PRI Review 54 号に掲載している。</p>